

# 学校図書館支援センター通信 NO.115

## 10月号

平成29年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

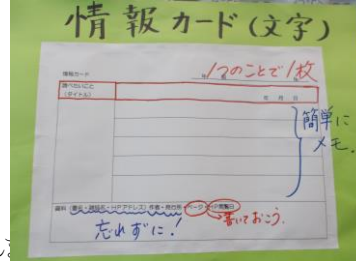
鈴虫の声も聞こえ始め、すっかり秋らしくなってきました。今年の読書推進運動協議会が主催する読書週間（10月27日から11月9日）の標語は、「本に恋する季節です！」です。各学校でも、学校司書、司書教諭が中心となり、読書に親しむための催し物が多く行われているのではないのでしょうか。一人でも多くの子供たちが、お気に入りの本と出会える季節になることを期待しています。

## 文部科学省委託研究校 学校図書館活用公開授業研究会

第四中学校と第七中学校で学校図書館活用公開授業研究会が行われました。両校とも、学校図書館活用を学校全体で取り組んでいます。そのため、調べ学習で使う情報カードなどを学校全体で共有できるような工夫をしています。共有することで、教科ごとの横のつながりも生まれます。講師の先生より、学校図書館を活用することで、教科横断的な学習が可能になるというお話を伺いました。そして、そのためには学校司書の力が必要です。特に中学校では、学校司書、司書教諭が教科をつなぐ役割を担っています。

### 【9月27日（水） 市川市立第七中学校】

学校図書館活用の全体講師として、東京学芸大学 村山 正子先生をお招きして、公開授業が行われました。また、市川市学校図書館アドバイザーの小林 路子先生も参加されました。授業を作る上で、各教科のねらいを達成するために、学校図書館をどのように活用すると効果があるかということが協議会で話し合われました。



#### 【学校図書館活用の授業の紹介】

どの授業も子供たちが主体的となり、自分の考えを伝え合う姿が多く見られました。

3年生 理科	倉持 一幸 教諭	「太陽系のすがた 身近な天体～惑星を知ろう」 単元の導入として、調べ学習を取り入れました。図書資料には、付箋が貼られており、いつでも図書資料を提示することができる環境を整えていました。
1年生 社会科	蛭田 正明 教諭	「北アメリカ州についての調べ学習」 ウェビングを用いて、調べることを決め、情報カードを用いて調べ学習を行いました。情報カードは、2種類用意されており、図やグラフから読み取ったことも書き留めることができるように工夫されていました。
3年生 道徳	大崎 有希 教諭	「拝啓十五の君へ アンジェラアキと中学生たち」 本時で使用した図書資料だけではなく、生き方に関わる本を複数用意し、紹介しました。授業後、一人一人が実際に本を手にとることで、本を通して、さらに自分を見つめなおす時間になります。
2年生 国語科	釜谷 沙織 教諭	「知的書評合戦 ビブリオバトル！」 第七中学校の学校図書館にある本の中から紹介することで、今後の読書活動へつながることをねらいとしました。単元を通して、学校司書が授業に関わり、授業者と役割を分担しながら進めていました。

## 図書館の窓から ~ひろげよう! 図書館の輪・リレー執筆~

本が大好き! 八幡っ子。読書の魅力をもっと広めたいとがんばる図書委員は、読書月間の催し物をはじめ辞書引き大会や百人一首大会、読書講演会などの読書活動を積極的に行っています。

なかでも給食委員会とコラボレーションして行われるお話し給食は、図書委員が選書→全児童が投票→給食委員が集計→その結果選ばれた料理やデザートに給食で再現してもらう楽しい企画です。今年選ばれる5冊はどんな本? お話は? そしてどんなお料理? デザートかな? わくわく! ドキドキ! 給食を味わいながらお昼の放送でお話を聞く素敵なひと時です。

(市川市立八幡小学校 学校司書 山下 郁子)



### 【10月12日（木） 市川市立第四中学校】

2年生 国語科「私が選んだ とっておきの短歌」 教材：近代の短歌 授業者 伊原 永恵 教諭

学校司書は、本の紹介、情報カードの書き方などの支援を行います。

情報カードを用いて、各自が選んだ「とっておきの短歌」について調べました。学校司書と授業者の役割を明確にし、二人で連携を図りながら、授業を進めていました。また、本単元のねらいを達成するために、司書教諭、学校司書、国語部会の先生方で、選書などを中心に、事前に何度も話し合いを重ねたそうです。ねらいに合った図書資料が用意されていることで、必要な資料をすぐに手にすることができ、生徒たちは、落ち着いて学習に取り組むことができました。

授業者が授業の流れを作ります。



## 作家講演会 テーマ「こどもとえほん」 妙典小学校 市川市出身 絵本作家 いしかわ こうじ さん



10月17日（火）絵本作家 いしかわ こうじさんをお招きして、作家講演会が行われました。いしかわさんは、市川市に生まれ、小学校3年生まで、市川市で過ごしました。市川市で過ごした、幼少期の体験は、現在の絵本作家の仕事につながっているそうです。

初めての作品は、しかけ絵本「どうぶついろいろかくれんぼ」です。工作や絵が大好きだった子供時代に感じた作品を作り上げるわくわくする気持ちは、現在の絵本作りの原点となっています。しかけ絵本の魅力の一つは、年齢、国籍など関係なく、みんなが楽しめるということです。講演会では、読み聞かせも行われ、しかけ絵本のおもしろさに引き込まれた低学年の子供たちは身体を前に乗り出して、楽しんでいました。

また、いしかわさんの幼少期からの生い立ちや絵本作家になるまでのお話も伺うことができ、高学年の子供たちは、今後の生き方についてのヒントになりました。講演会の最後に「自分が好きなこと、人よりうまくできることをのびしていく事が大切。好きなことをとことん取り組みながら、自分の天職を見つけてほしい」というメッセージを子供たちへ送っていました。



『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。  
市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）  
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4  
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352  
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

